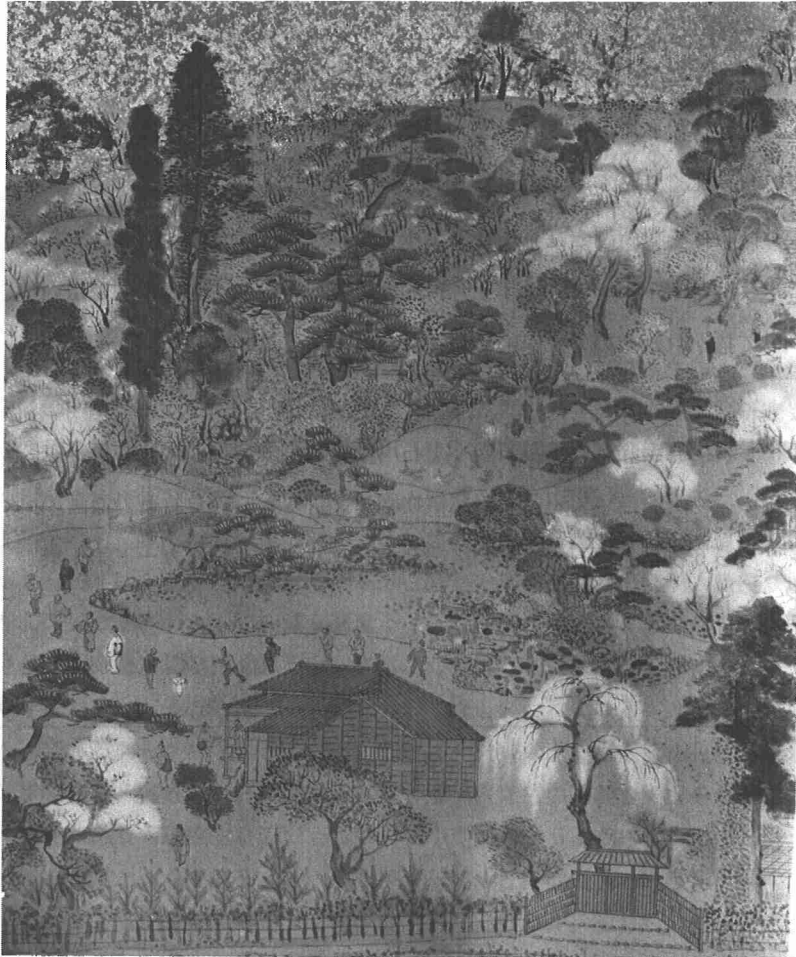


東京大学理学部

廣報



目 次

表紙の説明	1	
一事務官から見た理学部の将来について	蓮見 公一	2
中間子科学研究センターの発足	永嶺 謙忠	4
小石川植物園後援会について	邑田 仁	6
帰京の憂い	黒岩 常祥	7
理学部雑感	鳥海 光弘	8
High Tc (ハイ・ティーシー)粉のすり方	十倉 好紀	9
盗難に注意しましょう	小谷 昭	11
理学部研究ニュース		12
学部消息		16

表紙の説明

植物園一覧図

(部分 — 理学部附属植物園蔵)

理学部附属植物園は、1684（貞享元）年に徳川幕府が現在地に菜園を移設して以来300余年の歴史がある。明治維新直後にその所属は目まぐるしく変ったが、1877（明治10）年4月、東京大学設立と同時にその所属となり現在に至っている。

図は1876（明治9）年4月に加藤竹斎により日本画の技法を用いて描かれたもので、原画の大きさは縦104.3 cm×横165.5 cm。当時の植物園を描写した貴重な資料である。加藤竹斎は画工として活躍し、伊藤圭介・賀来飛霞の「小石川植物園草木図説」のために多数の植物画を描いている。附属植物園に保管されている竹斎の原画のうち6枚は、小石川植物園後援会からグリーティングカード第1集として刊行されている。

邑田 仁（植物園）